

新潟シティガイド

ポジティブへの誘導

路地連新潟



野内 隆裕氏

平成二十年十二月発行の第三号で原稿を書かせていただいたから、はや六年。野内です。

昨今のまちあるきブームや、シティガイドの皆さんの活躍を目にすると、案内板や地図も整備され、まちあるきのイベントも盛んな新潟の町は、何とも面白い展開になっているなあと、嬉しく感じております。「新潟の町には何もない・・・」六年前でも、まだかなり言われる人がいました。が、シティガイド皆さんの活動は、そんなネガティブな感じ方との戦いであった様に思えます。相変わらず「小路めぐり」



をしつこく私もアピールしておりました。結果、昨年「自分のまちの楽しみ方・新潟の町小路めぐり(まちあるきのしかけ)」でグッドデザイン賞を受賞させていただきました。それは新潟市の担当者の皆さんや路地に住む方々、総合学習でめぐってくれた子供達、案内して下さったシティガ

NO. 20号

《編集発行》

新潟シティガイド

《発行人》

関 克人

路地連新潟活用事例

でもありません。皆さんが案内し続けてくださった事に、少しづつポジティブな場所へと印象が変わっております。あるものを知り、楽しむ、その楽しさを発信する。きっとそこから何かが変わるはず。これからも新潟の町を楽しむ、その楽しさを発信して行きます。

イドさん、皆さんの活動の積み重ねが評価されたものであります。小路で新潟案内するシティガイドさん達もグッドデザインなのです。今でこそ、まちあるきの人気コースとして欠かせない小路・寺町・下町・日山ですが、十年前は見向きもされず、忘れられた場所

- ・聞いたことは忘れる
- ・見たことは思い出す
- ・体験したことは理解する
- ・発見したことは身につく



高齢者大学での関代表

代表に就任してから早くも四カ月になりました。その間、ガイド活動も順調に行われ、各担当委員会も活発に行われているのでホッとしています。相当忙しくなることを覚悟していたのですが、外出する機会が少し増えたものの、当初思っていた程の大変さはありません。前任の代表は、昨年、一昨年とも、取材や講演、会議の出席などの部外活動が結構あったようですが、今



代表 関 克人

ガイド活動を支える「会員の和」

のところ私の出番はほとんどありません。身構えていたせいもあり、拍子抜けしているところ。私は、総会の新任挨拶で「会員の和」を共通課題として進めていきたいと申し上げました。活動の結果を評価するには「相互理解」「相互信頼」が深まったかどうかを基準にしたいとも申し上げました。私たちが「新潟シティガイド」に入会した理由は、ボランティアガイドとしてお客さんや地域に貢献し、それを自分の生きがいとして選んだためです。生きがいの原動力になるのは、会員同士が心を通じ合わせ、楽しく活動することです。そのためには「交流会」や「研修会」などを重視しお互いが理解しあえる機会を多く作っていきたくと考えています。趣味などを通じて会員同士が親密になるのも大いに結構なこと。ガイドとして、お客さんや地域にきちんと責任を果たしているわけですから、「仲良しグループ」などと言われてもかまいません。「会員の和」の追求は、私の課題であるとともに、

なさんの共通課題です。ご協力をお願い致します。秋には、新たに養成講座を修了した仲間が加わります。ガイド活動を支える「会員の和」が、更に深まることを期待しています。

退任挨拶



八木 洋
前代表

今年四月の総会をもって代表を退任いたしました。三期六年間、会員の皆様や関係の方々より多大なご協力をいただきました。本当にありがとうございます。平成一十九年一月、暇を帯びて余っていた私に、妻が「こんなのありますよ」と持ってきたのが市報にいたの観光ボランティアガイド養成講座の案内でした。引越して来て三年半、新潟について全く不案内でしたので「講座だけは受けてみよう・」で応募しました。

養成講座は基礎編・実践編と進み、九月の最終回では、自主組織を生み出すための話し合いが行われ、

設立世話人会が発足しました。あれよあれよという間に会の設立にかかわることになったわけです。十月から市役所をはじめ関係する方々のご臨席のもと、ガイドのカタチと会の立ち上げについて集中的に議論しました。しかし、一言ある人たちの集まりですから、なかなか意見がまとまりません。苦労しましたが、お客様一人から五百円をいただくシステムとガイド申込受付の体制を整え、規約を定めて平成二十年四月十二日、設立総会の開催にこぎつけました。



設立総会での八木前代表

会の運営費から逆算したお客様の目標百五十人は、だいたいようぶか？と心配しました。新潟日報には『千客万来も観光ゼロ』などと書かれましたが、七月には年間の目標を

突破する順調なスタートでした。広報紙やホームページの態勢を整え、ガイドコースの見直しと宣伝チラシの改訂などを行いました。ガイドのスキルアップやほかの地域のボランティアガイドとの交流も図りました。ガイド活動は外部企画の受託や独自のイベントガイドなども含めて拡大してきています。これはとりもなおさず担当の役員や会員及び関係の方々や協力のおかげと深く感謝しています。新しい役員体制のもと、新しい考え方による活動の展開や会の運営が期待されます。

お客様も会員も共に楽しめる「まち歩きの手」新新潟シティガイドの更なる発展を願ってやみません。

ガイド日誌

旭川市のお客様をガイド



赤塚 正明

平成二十六年五月二十四日(日)「みなとぴあ」入り口でお客様のS様と待

合わせ。今日は「新潟湊・歴史散策コース」のご依頼でした。S様は北海道旭川市の方で、トキメツセで開催された学会のため来新され、午後四時の飛行機で帰られるとの事で、お一人でのまち歩きでした。私の甥も旭川市に住んでいるので何か不思議な縁を感じながらガイドを行いました。

先ずは信濃川から、大河津分水が完成するまで信濃川の川幅はおおよそ八百メートルであったこと、川幅が一定になった事から港が整備されたことなどを説明し、佐渡汽船ターミナルと佐渡のことを話ながら、視線を河口の方に向けると、北海道行きのカーフェリーが目にとまりました。そこで、あの船は北海道航路であることをお話ししながら、「千の風モニュメント」へご案内し、このモニュメントは全国で二カ所しかなくもう一つは大沼公園近くにあるんですよ、とお話した所、どちらも北海道に関わりがあるためか関心を示しておられました。その後、湊稲荷神社、寄合町の金毘羅神社、開運稲荷神社と回りましたが、その道すがら北海道の話になり、旭川市は旭川動物園の影響で観光



開運稲荷神社

客が多いようです。と尋ねたところ、観光客はすぐく多いのですが旭川周辺に宿泊する人は少ないんですよ、北海道はこれから桜をはじめ、多くの花が一斉に咲くので一番良い季節を迎えるなどのお話で、会話を楽しみながらガイドを行いました。寄合町の金毘羅神社の難船絵馬は「みなとぴあ」に貸出中のため見ることはできませんでしたが手持ちの資料で説明したところ遭難当時の状況を納得されたようでした。

開運稲荷神社では、天気良かったので脇道から海へ出ました。予想どおり佐渡がハッキリ見えS様にも喜んでいただけました。その後予定のコースを巡り、

七月十九日(土)午後からのローサ当番で、千葉県我孫子市のご夫婦をご案内



加藤 文夫

安吾に魅せられた方をガイド

「みなとびあ」へ戻りました。S様はクールで紳士的な方でしたが、別れ際に今日は大変楽しかったとの言葉をいただきましたので、最後に、お気を付けてお帰りください、縁があったらまた新潟へお越しくださいとの一言を添えてガイドを終りました。



金毘羅神社(寄合町)

しました。ご主人が六十五歳で定年となり、その記念にと二泊三日の新潟旅行を計画したとのこと。この日はその二日目、佐渡一周を終え、帰路このまち歩きを思い立ったそうです。奥様は六月二十二日(日)付けの読売新聞に掲載された坂口安吾を紹介する首都圏版特集記事を持参しておられました。その記事には安吾生誕の地、行形亭、北方文化博物館新潟分館、旧齋藤家別邸、風の館、どつぺり坂などがイラスト、写真入で載せられていました。また、安吾から影響を受けた作家の瀬戸内寂聴さん、野田秀樹さんの言葉も紹介されておりこのコースにぴったりでした。いつもの事ですが、ガイドの始まりにNEXT21の十八階展望室から市内の様子を見ていただきました。信濃川と日本海、海に浮かぶ佐渡島、西堀や寺町の様子、榎谷小路など景色を眺めながらコースの概要を説明しガイド開始です。要所にあるまち中歴史案内板や石碑はガイドする者にとつて大変ありがたいです。西堀通りとその裏に立ち並ぶ数多くの寺々、鍋茶屋通り、市山流宗家、六軒

風の館を訪れた際、運良く安吾夫人特集が開催されており大変喜ばれました。奥様と旦那さまとの会話のやり取りを見聞きするに



御林稲荷社

鍋茶屋前などポイントでは記念写真をパチリ撮ってあげました。特にお二人が興味を持たれたのは、新潟大神宮参道にある安吾生誕碑、石段や坂道の続く迷路のような小路で出会う御林稲荷社でした。また、安吾



「G」付き、案内板

小路と新潟花街の町屋など興味が尽きない様子でした

白山公園は、白山コースの私達には、ガイドの出発地であり、集合場所になります。一月は雪吊りや雪囲いの冬景色を見ながら春が来るのを楽しみに公園を歩き、二月に雪が解け、梅の木に芽が出て三月には満開を迎えます。春から初夏にかけて桜・藤・牡丹などが次々と花を咲かせ、六月にはつつじや蓮の花をひと月楽しめます。秋は「りゅうとびあ」の桜の木が色とりどりの紅葉のグラデーションを描き出し、公園の木々を色付けて



平野 マサ子

白山公園

おすすめスポット

つけ、最初関心の薄かった旦那様も、このまち歩きを通し、新潟の街をすっかり気に入ってくれたようです。お二人はこの日、新潟駅近くのホテルで一泊し翌日はガイドで入れなかった旧齋藤家別邸や行形亭の軽食を体験するとの事でした。



近藤 勲

下町ミステリー浅草観音堂

くれます。色付いた葉が舞い落ち、敷き詰められ、徐々に冬を迎える物悲しさ。私が一番好きな晩秋です。白山公園は一年中季節を感じる事のできる私の散歩道です。三期生が入会した年、先輩方が寒い冬の間何度も三期生の為に研修を行ってくれました。雨の日も雪の日もありました。この研修があったからこそガイドとして話が出るようになったと思います。先輩方、本当にありがとうございました。



白山公園

「みなとぴあ」より進み、新装なった早川堀通り。せせらぎの涼風を肌で感じながら二百メートルほど歩くと「かんのん橋」の標識が目にとまる。橋標対岸道路方向突き当りにお堂らしき建物が見える。これぞ浅草観音堂。さて、その浅草観音堂、小さなお堂であるが今も近隣住民の信仰を集めていると聞く。



浅草観音堂

由緒は「東京浅草、浅草寺が明治開港五港の安全祈願の為に各港に聖観音様を分身し、新潟へは遅れて明治十二年に・・・」というくだりはご存知の通りである。これより数多くのミステリー的な伝説に関心が向くのもこの観音堂である。一例として「建立時、僧は大金を積まれて・・・」「以前は寺の敷地は広がった・・・」「いろんな事があつて瑞光寺（西堀三）の末寺に・・・」「可愛そうな観音様・・・」「お堂の貸間の独身女性が・・・」

など、また、堂裏に掲げられた地獄・極楽絵図は子供たちの恐怖の的であつたとも言われている。等々、小さなお堂にまつわる多くの由緒を思うと異様な建物にも見えてくる。是非訪れてみたい。



観音様

「今でしよう！」
「いつ行くの？」
「今でしよう！」
「今でしよう！」

立ち寄り

湊町通の歴史



相田 敏之介

ガイドをする際はお客さまに「見どころマップ」で案内する建築物などの説明に加えこれから歩く街並の今昔など語るようにしてい



湊町通りの雁木

る。「みなとぴあ」近くの湊町通ではこの通りは、税関の昔の呼称である運上所が明治二年に出来たときに上大川前より約七百メートルの新道が開通したので運上所通と呼ばれていた。私などは子供の時は字も意味も分からないが大人の言う通り運上所通と呼んでいた。

明治十三年の新潟大火では当時の新潟町の全戸数、一万二千七百七十七戸の半数以上の六千七百七十五戸を焼きた下町の大半が焼けた中で、湊町は焼失を免れた。（北前船の時代館の土蔵の屋根に当時の焼け跡が見られる）今でも昔ながらの雁木のある家と雁木のあるのは残っている。雁木のあるのは旧新潟市内では此の処だけである。

また大火後、鍛冶町と称した現在の古町通十番町の鍛冶屋が移転して来た。運上所通が出来た当時は賑わったが湊の衰退から寂れて来たので人を集めて賑やかにしよと言ふ事で、明治二十八年に市場開設の許可を得た。市日は毎月二・五・八の月九回、時間は午前八時から午後四時迄で取扱品は古着で運上所市と呼んでいた。

昭和十二年に市場は廃止となった。戦後復活を申請したが現在の路線バスが日中四十分一本とは違い、交通量が多かったため許可にならなかった。近くの柳島に昭和十四年魚市場が出来て下町方面は新潟鉄工所や中小の鉄工所が活況を呈していた。

この通りの歩道は市道でなく私道でありそのため家の取り壊し跡の駐車場など歩道にラインを引き駐車スペースとなった。

歩道の固定資産税は個人負担だが正式に市・土地家屋調査士・所有者立ち会いで実測し認められればその部分の固定資産税が免除されるが、その経費が免除される税金に比べ多額なので多くの人は個人で負担しているとの事です。

編集後記

会の活動も七年目を迎える。広報紙も記念すべき二十号を発行する運びとなりました。そこで、新体制のスタートや、四期生の新規参加等も踏まえ、「まち歩き」の原点を再度確認する意味で、野内隆裕氏からご投稿を頂きました。その内容から我々一人一人も動く「Gマーク」である事を知りました。この事を自覚して活動して行きたいものです。また、八木前代表の退任挨拶では、草創期の並々ならぬご努力の経緯を知りました。今の活動がその過程を経て成り立っている事に感謝したいと思ひます。関係代表からは、「会員の和」が大切との抱負を述べておられます。会員相互の「信頼・理解」を更に深め「楽しい」「やり甲斐」のある活動を目指しましょう。 勝見 進

広報からお願い！！

楽しい出会や感動のまち歩きをブログに投稿しませんか！！

チラシを皆で、有効に使いましょ。